

## 『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8 その8

## ニュージーランドで湯治（その2）

佐伯 順弘（岐阜県）

ニュージーランドの北島にあるオークランドに到着した後、バスでファンガレイに向かった。ファンガレイで一泊した後、日帰りでその近くにある「カウリ」という巨大樹木を見に行った。

ファンガレイでもう1泊した翌日、次の目的地に向かった。



**DAY4 (11AUG2013)** ファンガレイから温泉地であるロトルアを目指す。

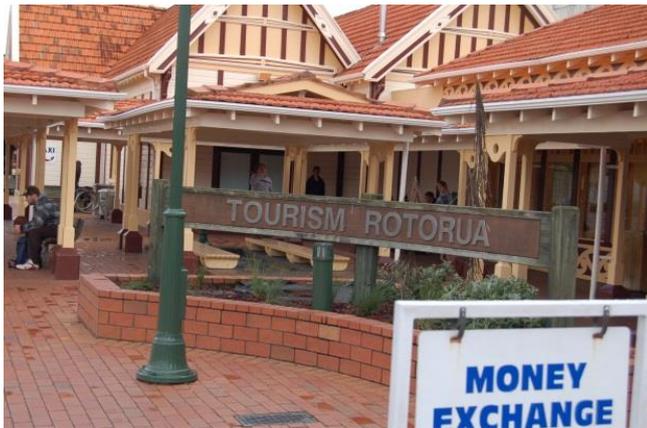
0700 起床 0800 朝食（昨日買ったチーズパン1つ、ヨーグルト、コーヒー）を素早く済ます。0830 チェックアウト。ロッジの人がバス停まで車で送ってくれるという。ありがたい。キーデポジット 20NZ\$戻る。

0915 オークランド行きインターシティバスに乗る。34NZ\$。バスは広々快適、しかも日本のバス特有のバス臭さはない。



1150 オークランド着。ここからロトルア行きのバスが出ているはずとなんとなく信じていたので、なんとなく探してみると、やはりあった。オークランドは中心都市でロトルアは温泉地なのだから直行バスが出ていないわけがない。というわけで、かなりの僻地でない限り、行きたいところへの交通手段は普通にあるものだ。しかも運よくロトルア行きは1300に出発だという。まるで計算したかのような素晴らしい行程である。30.5NZ\$でバスチケットを買い、水を手した。ロトルアまでは4時間ほどかかるらしいが、別に急いでいるわけではないので問題はない。しかも、バスの旅は快適だ。今までに何度も書いたが海外のバスはほとんど快適である。日本のバスはその車内の臭さ、吐き気を誘発するショックアブソーバーの設計思想が一向に改善されない。そしてなにより座席の狭さ。何年前の日本人の標準体型を基準にしてシート及び車体を設計しているんだか。日本人にも体のでかい奴が増え、そうでなくても体の大きな外国人だって日本に観光に来るのだからいい加減根本から見直してほしいものだ。それもせずにおもてなしなどとは噴飯ものである。（ちなみにこの噴飯ものという言葉だが、正しく使える日本人は半数に満たないらしい。他にも「流れに棹（さお）さす」「役不足」「気が置けない」も正しく使えないとのこと。いと情けなし。まあ、どうでもいい。）とにかく、観光のフットワークを向上させるはずのバスが、30年前の中国や20年前のパキスタンのバスにも劣るとするのは技術立国日本、おもてなし大国日本に属する者としては大変残念である。但し、夜行バスについてはかなりの質の向上が見られるため、大変満足しているので除外する。（バスタ新宿と美濃加茂を結ぶ路線の夜行バスは大変快適である。しかし、美濃加茂のバス停は山の中であるため最寄りの駅までは20分以上歩かねばならない。これは高速道路SAを利用しているからで仕方ないと言えれば仕方ない。歩けばいいだけの話である。しかし、美濃加茂市も地元

タクシー会社に委託したコミュニティバス網を拡大中なので、高速バス停の問題も早晚解決するはずである。) そんなどうでもいいことを考えている内にバスはハミルトンという町で休憩。バスターミナルというか、ドライブインのような感じの施設で、トイレを済ませたり、水や軽食を買ったりという具合に過ごす。20分くらいして、客がバスに戻りバスは出発した。



1650 ロトルア着。そこから歩いてすぐのところに今夜の宿がある。



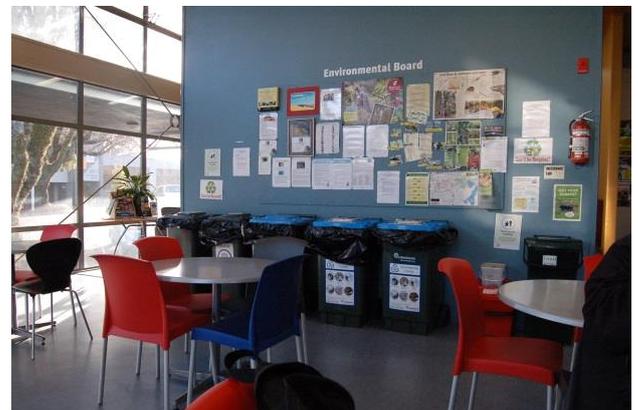
1700 YHA Rotorua 着 1泊25NZ\$。2泊分支払う。やはりユースホステルはいい。エジンバラもロンドンもここロトルアも快適だ。独立系ホステルも悪くないが YHA のホステルは共通する安心感がある。学生の時、相部屋の寮で生活していたから「戻ってきた感」があって落ち着く。今回の部屋は2段ベッド3つの6人部屋。指定されたベッドが自分のエリアだ。下の段を取ることができたのでベッド下に荷物を置く場所を確保できた。

基本、寝るだけの部屋なので人がいっぱいでも気分が落ち着かないということもない。朝も同じ時間に起きるわけではないため、顔を合わせないことすらある。もちろん、顔を合わせれば、友好的に挨拶を

交わす。



シーツは清潔でベッドの固さも申し分ない。室内は適度に乾燥しており、程よく暖房されていて大変快適である。



ダイニングは清潔でゴミの分別など環境に配慮したルールが徹底している。



キッチンも広々としている。コンロがいくつもあり、各人が待つことなく自分の料理を作ることができる。また、責任をもって片付けることが徹底されている。監視されるとか注意されるとかいうのではなく当たり前のことなのである。したがって、どこのユースホステルもキッチンは整っている。今回は使わなかったがコインランドリーもあり、荷物を少なくして長期間旅をするときには大変ありがたい。

あっという間に夕方になったので、外に出る。



歩いてすぐのところにある湖。なかなかよい夕暮れだった。そのまま、辺りを散策して夕食をどこにするか考える。するとそこで目に入ったのは、様々なビールの銘柄の看板。即座にそこに決めて中に入る。8月だがニュージーランドでは冬である。あまり、外にいたくないのだ。さっそくエールビール9×2 とポークリブ 23.7、F&C23.7、計65.4NZ\$をオーダーする。



旨し。やっぱりリブは手づかみで骨から肉をはがすようにかぶりついて食べるものだ。骨の近くの肉のうまさに気づいていない人が少なからずいるのは大変残念なことである。食事は正しいマナーで楽しみたいものである。例えそれが手づかみで手がべとべとになるものであったとしてもだ。(ちゃんとレモンスライスを浮かべたフィンガーボールは用意されていた。)

満腹した後、明日の朝食用にシリアルと牛乳とコーヒーを買って帰る。

#### DAY5 (12AUG2013) 湯治

0800 自然に目が覚めて起床。昨日買っておいた食糧を朝食にする。このユースホステルは1泊

25NZ\$ (約 2125 円) で朝食を付けていないので、自分たちで用意する必要がある。冷蔵したいものは名前と日付を書いて共用の冷蔵庫に入れておく。盗まれたりしたことはない。



簡単な朝食を終えたら、洗い物をして今日の探索に出かける。道を歩くとあちこちから湯気が立ち上っている。火山活動が活発な島であることを再認識させられる。



中には住宅の庭に吹き上がっているところもあった。吹き出すに任せている感じだが、自分だったら熱交換器を設置してお湯を作って利用するか、簡易的な地熱発電所を作ってしまうのにとエネルギーの無駄を残念に思う。もしかしたら、頻繁に噴出場所が変わるのかもしれない。

そのまま歩いて、大通りに出る。マツダ、スズキ、日産、ホンダの看板が並ぶ。ここは日本か？そして、向こうには・・・。



ウェンディズ、マクドナルド、バーガーキングが並んでいた。最近の海外旅行で感じるのは、マクドナルドよりバーガーキング=BK を目にする機会の方が多いということ。世界シェアはBK がとったか？個人的にはBK が好みである。



1100 早めの昼食をかわいそうなくらい人がいないBK で済みます。2.5NZ\$ (212.5 円)



1140 レインボースプリングスという動物園にたどり着く。中には魚類、鳥類などが展示されていた。特に爬虫類、トカゲの仲間がかなり多く展示されていた。

さて、そろそろ今回の重要なミッションである湯治に出かけるとしよう。



バス網は割と整備されているようで、使い勝手がよさそうだ。冬とはいえ、よく晴れてそれほど寒くはない。2.5NZ\$ で市中心部へ向かう。



1325 あっという間に到着ポリネシアンSPA。ここでゆっくりと温まるのだ。何度も確認するがニュージーランドは8月が冬だ。今は寒いのだ。



1610 いい湯だった。いくら水着で入る温泉だとしてもそこで写真を撮るわけにもいかなかったのだ。温泉というか温水プールがいくつもあり、温泉に入りに来たのか温水プール探検に来たのかわからない状況だった。よくもこれだけ多様なものを作ったものだ。毎日入りたいと思ったが、25NZ\$ (2125 円) はやや高い。

1630 風呂に入ったら夕食である。近くのスーパーで肉を買う。牛肉は約1kg で850円くらい。



焼いて、サラダ、パンと共にいただく。旨し。このようにニュージーランドの旅は単純な欲望に制御され進んでいくのであった。

(つづく)